

世界に貢献できる 人材育成のために

— 30年度八千代こども親善大使バンコク都訪問 —

30回目の派遣となる八千代こども親善大使一行が、1月23日～30日にタイ王国バンコク都を訪問しました。平成元年に設置された「八千代こども国際平和文化基金」の事業として行っています。お問い合わせは、指導課☎481-0301へ。



グループディスカッションや植樹、壁画づくりなど

タイ王国の首都であるバンコク都は、面積が1568.7km²、人口約820万人の大都市で、小学校と中学校合わせて437校あります。タイの教育制度は6・3・3・4制が基本で、初等学校の6年と前期中等学校の3年が日本の義務教育にあたります。小・中一貫校も多く、今回の八千代こども親善大使が訪問したワット・ベルワナラム学校も、全校生徒が約1,700人であるように、規模の大きな学校も多く見られます。

学校訪問では、日本とタイの国旗を手にした児童・生徒たちからの大歓迎を受けました。タイ舞踊、手芸、ムエタイの授業体験や、日本の伝統的な遊びである「羽子板」と「けん玉」などを通して、互いの文化を伝えて交流しました。

グループに分かれて「世界をより良くするためにどうすればよいか」をテーマに、水・空気・気温について、問題から解決策まで英語でのディスカッションも。訪問の記念に、世界平和を願って学校の壁に描かれた画に色を塗ったり、ラマ10世の誕生樹であるハニカムツリーを敷地内に植樹したりしました。

心のつながりが強い絆になってこれまでの交流を支えています

市では、次世代を担う子どもたちが国際理解を深め、世界に貢献できる人になって欲しいという願いを込めて、ふるさと創生1億円を活用して、平成元年に八千代こども国際平和文化基金を設置しました。この目的を達成するために、八千代国際こども文化事業に取り組み、国際平和作文コンクールの入賞者の中から選ばれた子どもたちと八千代子どもサミットのメンバーを八千代こども親善大使として、友好都市のタイ王国バンコク都に派遣しています。帰国後も歴代の八千代こども親善大使で結成した「ダイラ

ックアン」が、バンコクこども親善大使のウェルカムパーティーを企画・開催するなど、交流は続いています。

バンコク都はアジア圏では比較的近く、親日的で日本の皇室との結びつきが強いことなどから派遣先として選ばれました。人口や面積などの規模は大きく違いますが、心のつながりが強い絆になって、これまでの交流を支えています。



▲心を込めて訪問の思い出をつくりました

JICAタイ事務所では難航した洞窟からの救助の話も

バンコク都知事と都議会議長を表敬訪問したほか、タイ日本国大使館やJICAタイ事務所などを訪問。3泊4日のホームステイでは、文化や生活習慣の違いを体験しました。

都議会や大使館では、文化や生活習慣、経済などについて質問し、理解を深めました。JICAタイ事務所では、世界の現状などから日本が恵まれていることを学びました。また、昨年タイで起きた洞窟からの救助の話では、詳しい地形がわかる地図がなかったため救助に難航したことなど、当時の様子を直接担当者から聞くことができ、貴重な経験になりました。

最終日のさよならパーティーでは、お世話になったホストファミリーやバンコク都職員の人たちに感謝の気持ちを込めて「ダイナミック琉球」の踊りを披露。お互いに別れを惜しみました。

今度は自分が恩返しを

八千代こども親善大使代表
睦中学校2年 粟飯原 暉



久しぶりに学校へ行くと、机の中に多くの紙がありました。「学校からの手紙がたまっているのか」と思って見てみると、それは友だちが代わりにとってくれた授業ノートでした。友だちへの感謝が僕の胸に込み上げてきました。

その日の約一週間前、僕はタイ王国へ。実際に行ってみて一番に思ったことは、出会った人がみんな優しくて「微笑みの国」といわれているのを肌で実感することができました。

こうして無事に、僕を含めた12人が大成功で終わることができたのは、数多くの方々の協力があったこそだと、帰ってきて再確認しました。今度は僕がその恩返しをしなければいけません。この経験を最大限に活かせるように、支えてくれた人への感謝を忘れずに活動していきます。

大切な人たちとの「出会い」

八千代こども親善大使代表
萱田中学校2年 松村 唯



私は、1月23日から30日までタイ王国バンコク都を訪問し、親善大使として素晴らしい体験をすることができました。タイの方々と交流するにつれ、日本とは違う空気に気が始めました。お世話になった方々は、私たちが本当の家族や友人のように扱ってくれたのです。日本人は多くの場面で愛想笑いを浮かべてしまうのに対し、タイ人は心からの笑顔が素敵でした。

もう一つ、同じ親善大使の仲間たちとの出会いがありました。事前の研修では共にタイについて学び、タイでは協力し合って課題を乗り越えてきた11人の仲間たちは、私の宝物です。

二つの出会いを通して、人と関わることの楽しさ、喜びを感じました。心を開いて相手と良い関係が築けるように努力していきたいです。

広告

広告